

令和7年5月29日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題

新たな水稲直播技術～播種実演会～を開催しました！

(ダイジェスト)

益田管内では省力・低コスト化技術として、直播栽培技術を推進しています。直播栽培は育苗・移植作業が省略でき、作業時間の短縮や作業の平準化に繋がります。

そこで湛水直播栽培技術を導入している農事組合法人横尾衛門で5月20日に水稲の担い手を対象に研修会を開催しました。

島根県では担い手の高齢化や労働力不足に対応するために、スマート農業や省力・低コスト化技術の導入を促しています。益田管内では令和6年度スマート農業に関する研修会を2回行い、参加者へ啓発しました。令和7年度は導入しやすい省力・低コスト化技術である直播栽培技術を推進しています。

去る5月20日に湛水直播向けコーティング処理済み種子（リゾケア XL）を導入している（農）横尾衛門で研修会と播種実演を行い、農業者15名、関係機関11名の計26名が参加しました。

当農業部からは、播種時のほ場状態や出芽後の水管理など、移植栽培とは異なる播種前～出芽後までのほ場管理について説明をし、技術普及部西部普及指導課からは播種方法が播種機・ドローン・動噴と3パターンあること、またそれぞれの違いについて説明した後、先進地である出雲の事例も合わせて紹介しました。

また、製造メーカーから、湛水直播向けコーティング処理済み種子は酸素供給剤のほか殺虫・殺菌の成分も併せてコーティングされている種子であり、苗立ちも安定すると解説がありました。

参加者は、実際の種籾や機械を見ることで、湛水直播向けコーティング処理済み種子についての理解を深めました。

研修会後のアンケートでは、「育苗作業がなくなり時間の短縮になるのが良い」、「高齢者が多いため検討してみる」などの感想がありました。一方で「生育の過程」、「播種機を用いた直播栽培と移植栽培の色々な差」について知りたいという意見もありました。

アンケート結果を踏まえて今後7～8月に生育の経過をまとめ直播栽培に興味がある生産者に情報提供し、本技術の普及拡大に向けて活動していきます。



熱心に研修を受ける参加者



湛水直播実演の様子

1

担当者

益田地域振興第二課

永野壮太郎

TEL 0856-31-9612